

8月定例記者会見 市長原稿

それでは、8月の定例記者会見を始めます。

今月も、情報提供の前にまちの話題をいくつか紹介させていただきます。

本市では7月から8月の夏休みの期間中に、様々なイベントが開催されています。今年も、多くのこどもたちが、まちに繰り出し、元気な声を響かせていることをうれしく思っています。

本市が誇る伝統芸能「撞舞」は、7月27日に開催され、約 8,500 人の皆さまにお越しいただきました。

舞男の大石浩司さん、小菅真幸さんをはじめ、撞舞に欠かせない「貝原塚おこど囃子保存会」の皆さまなど、多くの市民の皆さまに支えられ、今年も本市の伝統芸能が滞りなく、執り行われたことに改めて感謝いたします。

ところで近年は、この撞舞会場で、多くの観客に交じって、こどもたちの姿をよく見かけるようになり、大変うれしく思っています。本市の伝統芸能を後世につないでいくためには、若い人たちにその魅力を直に感じてもらい、大切さを認識してもらうことが大切です。

私たちが幼小のころに見た撞舞の鮮烈な記憶が、今の保存・継承への強い思いにつながっているように、今のこどもたちが見て感じた記憶が、将来にわたる保存・継承活動につながっていくことを願っています。

そして、私たちが受け継いでいかなければならないのは、撞舞だけではなく。

本市では昭和 56 年の小貝川決壊を機に、決壊のあった 8 月 24 日を「市民防災の日」と定めています。

災害の記憶、そして教訓は、災害が激甚化する現代、「いかに防災意識を持続するか」という命題に、大きな示唆を与えてくれます。

今後も様々な周知活動、イベント、防災訓練などを継続的に開催することで、8 月 24 日の記憶を受け継ぎ、その教訓を次世代に伝えていきたいと考えております。

また、今年は戦後 80 年の節目にあたり、本市歴史民俗資料館では、企画展「戦後 80 年企画展 資料が語る戦争の記憶」を開催しています。小・中学生もたくさん来館してくれていると伺っておりますが、会期も残りわずか、9 月 7 日の日曜日までとなっております。

戦争の悲惨さを忘れず、あの過ちを繰り返さないよう、改めて心に刻む機会にもなるかと思いますので、ぜひ多くの方に足を運んでいただければと思います。

それでは、本日の情報提供に入ります。

最初に、オンラインプラットフォームを活用した意見募集についての情報提供です。

これまで本市では、アンケートや対面での意見交換などを通じて市民の皆さまからご意見をいただけてきました。しかし、参加者の年代に偏りが出やすいことや、「市民が提案し、市が回答する」というやり取りが中心で、市民同士が意見を知り合ったり、世代の異なる考えに触れたりする機会は限られていました。

そこで今回、行政が市民の声を収集・分析することに特化したオンラインプラットフォーム「PoliPoliGov」を、県内自治体で初めて試行的に活用します。

この仕組みはアプリのダウンロードやインストールが不要で、パソコンやスマートフォンのブラウザから簡単に利用できます。募集期間中であれば、時間や場所を問わず自由に意見を投稿でき、他の参加者の意見を閲覧することも可能です。

さらに、匿名で投稿できるほか、交流が可能なコメント機能や「いいね！」による意思表示など、若い世代にも親しみやすい機能を備えています。そのため、仕事や育児などでこれまで市政に関わるのが難しかった現役世代や子育て世代からも、意見が寄せられることを期待しています。

このような取組を通じ、多様な視点から意見が集まり、活発な意見交換が生まれることで、市民の皆さまがまちづくりに関心を持ち、参加するきっかけになることを目指しています。

なお、今年度は2回の意見募集を実施予定で、9月と 12 月にそれぞれ1か月間行

います。初回のテーマは「若者・子育て世代に選ばれるまちの実現には何が必要だと思いますか？」です。本市の重要課題である人口減少や少子高齢化を踏まえ、若者や子育て世代が今と将来に求めるものを把握し、市民と市と一緒に「何ができるか」を考えていきます。

そして、いただいたご意見は、直近の事業企画に活かすだけでなく、来年度に策定予定の「龍ヶ崎みらい創造ビジョン for2030 後期基本計画」にも生かしてまいります。

続きまして、空家管理通知での「黄色封筒」の導入についての情報提供です。

本市では、空家等の適正管理を促進するため、9月1日から新たに「黄色封筒」で通知を送付する取り組みを始めます。

黄色は視認性が高く、注意喚起の色としても広く認識されています。加えて「重要」「至急開封」といった文字をデザインし、所有者の方に通知の重要性や緊急性を確実に伝えられるよう工夫しました。

近年、空家の放置は全国的に深刻な社会問題となっており、龍ヶ崎市でも例外はありません。管理が不十分な空家は、景観の悪化だけでなく、防災や安全面でも地域に影響を及ぼす可能性があります。本市にも多くのご相談やご意見が寄せられています。

これまでも本市では、所有者に対し通知を行ってきましたが、複数回送付しても対応が進まない事例がありました。そこで今回の工夫により、通知を「見落とされない・軽視されないもの」とし、適正管理を促してまいります。

この取り組みを通じて、地域の安全・安心の確保につなげるとともに、市民サービスの質を高める小さな改善を積み重ねていきたいと考えております。

最後に「たつのこ産直市場新米フェア」に関する情報提供です。

今年も新米の時期になりましたが、市内の農家さんが丹精込めて育てたお米を皆さまにお届けするため、9月13日の土曜日と14日の日曜日に、たつのこ産直市場で新米フェアを開催します。

肥沃な土壌と豊かな水資源、温暖な気候に恵まれた龍ヶ崎市は、古くから稲作が盛んな地域で、本市で生産される米は、良質米として高く評価されています。

また、各農家がこだわりの栽培方法で丹精込めて育てた米は、土壌や水などの条件によって、風味や食感に違いも生まれ、それぞれの個性につながっています。

当日販売するお米は、新米のおいしさを存分にお楽しみいただける、収穫したての「コシヒカリ」「ミルキークイーン」「あきたこまち」などで、30 キロ以上お買い上げの方には、地元産サツマイモをプレゼントします。そのほか、秋の味覚、梨やサツマイモを販売いたします。

両日ともキッチンカーも出店してイベントを盛り上げる予定ですので、ぜひ多くの皆さまにご来場いただけたらと思います。